



NAYAX株式会社

フィンテック分野における無人機のキャッシュレスおよびIT化を目的とした グローバルPOS端末の日本導入のための開発および実証

本事業の目的・背景

- ・概要 Nayax社が新たに開発した無人機向けグローバル決済端末であるVPOS Media(以下 VPOSM)の日本展開のための開発サイド(テスト開発および決済疎通テスト)およびビジネスサイドの整備を実行する。
- ・直面していた課題 ニーズ 業界ごとに標準プロトコルや仕様が異なることが調査により判明、1モデルで従来機や競合他社より低コストで提供する体制を整えることで決済端末の普及を促進し日本のキャッシュレスを促進を図る。
- ・推定される検証結果 各種仕様の作成とサーバー構成・決済フロー図を策定しステージング環境の構築準備、各種プロトコル対応と疎通テストを実施しビジネス基盤を整える。
- ・本事業で開発する製品のユニークポイント

1機種で、無人機向けのあらゆる決済種別やプロトコルをカバーする横断性/JVMA MDB 各種SDK パルス API接続 /外部ディスプレイ接続をサポート/Navaxのスケールメリットを活かしたコスト競争力



Process Card Made of Records and Card Made of

実施内容

・実施スケジュール

2024年6月より12月にかけて、仕様書の翻訳作業やステージング環境の構築を実施。12月から2025年1月にかけて、実機での疎通テストを実施した。



・具体的な実証の取り組み

国内の決済代行各社のシステム評価を行い以下を行った。

日本独自決済の英語翻訳

要件定義の作成

ビジネスサイド要件の整理

本番環境リリーススケジュールの策定

ステージング環境の構築

決済フロー図の作成

評価試験の実施





NAYAX株式会社

フィンテック分野における無人機のキャッシュレスおよびIT化を目的とした グローバルPOS端末の日本導入のための開発および実証

検証結果 (成果)

・開発サイドの成果

VPOSMに搭載するクレジットカードや電子マネー、QRコード決済に関する仕様書を英訳し、VPOSMの本番環境開発のための仕様を策定した。また、決済に関するフロー図を作成し、開発用のステージング環境を構築・初期段階の決済疎通テストを1116回実施し成功。その後、顧客の無人機を想定した各プロトコルでの疎通テストを1109回実施し、成功した。

・ビジネスサイドの成果

商業稼働を想定し、各決済事業者との交渉を開始、 各決済手段(クレジットカード・電子マネー・QRコード決済)に関するコストの見積を取得し、従来機 や競合他社と比べて競争力のある条件を取得するこ とができた。

ランニングコストについて 従来端末比 月額費用62%削減見込 クレジットカード手数料について 従来端末比 16%削減見込 電子マネー手数料について 従来端末比 52%削減見込

開発サイドおよびビジネスサイドの成果を元に、商業環境での本開発スケジュールを策定、2026年1月までにVPOSMを商業リリースする目途がついた。

検証結果(課題)・解決策

商業リリースにおける課題として以下が挙げられる。

- ・本開発スケジュールに沿った、各種決済手段の開発
- ・クレジットカードおよび電子マネーの認証試験の実施
- ・各決済事業者とのビジネス面での契約締結
- ・オンボーディングプロセスの整備
- ・端末管理体制の確立

商業リリースまでの期間も短く、これらを同時並行して 進めるには、現状の体制では不十分であり、あらたに管 理体制の構築や人員のマネジメントが必要となる。

今後の活動予定

本実証実験の結果を踏まえ、本番環境での開発を促進し、同時にビジネス面の契約をすすめることで、 VPOSMリリースを目指す。

2025年 6月QRコード決済開発完了 2025年12月クレジットカード決済開発完了 2026年 1月VPOSMリリース 2026年 6月電子マネー決済リリース完了 2027年 6月累計販売数1万台突破 2027年12月VPOSM単体での黒字化達成